

二級河川巴川総合治水対策事業

あさ はた よみがえ  
麻機遊水地に蘇る  
生きものたち

# はじめに

麻機多目的遊水地は、巴川流域の総合的な治水対策事業の柱のひとつとして整備し、県で治水（河川）事業を、静岡市で緑地（公園）事業を進めています。遊水地は、平成16年10月までに第3工区、第4工区が整備され、5年に一度の大雨に対する安全性を確保しました。現在は、平成22年3月に告示された「巴川水系河川整備計画」に基づき、10年に一度の大雨に対する安全性を確保するため、第1工区、第2工区の整備に取り組んでいます。

整備された遊水地には、湿原性の植物などが蘇り、昆虫、野鳥、魚、両生類などの生物も多く見られるようになりました。

また、地域活動や環境教育などを通じて多くの人々が集い、平成16年1月に発足した巴川流域麻機遊水地自然再生協議会において、「良好な生態系（環）、里地里山環境にあった人と自然との共生（和）、そして周辺の自然とつながり（輪）」を目指し、平成19年3月に自然再生全体構想、平成20年12月には自然再生事業実施計画が策定されたところであり、当遊水地を舞台に市民・団体・行政が協働する「わ」がますます広がりを見せています。

この冊子は、人と湿原との関わり、多目的遊水地の整備と生きものの現状を紹介する内容となっています。本冊子を活用していただき、身近で自然豊かな麻機遊水地に関心を深めていただければ幸いです。

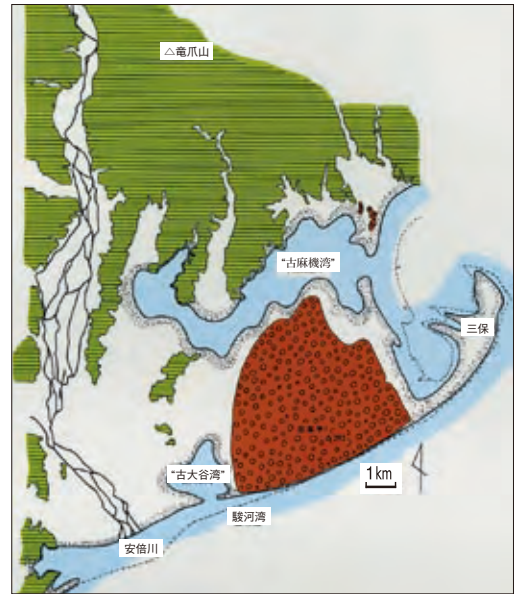
平成22年11月



●麻機遊水地全景（平成21年10月28日撮影）

# 池沼の歴史

現在の巴川周辺は縄文時代（約6000年前）には現在より海面が4～6m高く、清水から麻機に至る奥深い入江になっていましたが、弥生時代以降には、ほぼ現在の海面になり、低地が形成されました。このため、この地域では安倍川の本流が乱流し、流れは低地を縫うようにして清水方面に流れていました。江戸時代になると徳川家康によって駿府城が築造され、薩摩土手が造られたために安倍川からの水量が減少し、また下流では長尾川や吉田川から流出した土砂が堆積し、流れが衰え浅畑沼ができたと言われています。



▲縄文時代前期（約6000年前）の静岡・清水平野と古麻機湾（土・高橋1972）  
出典：記念誌『大谷川放水路』

戦国時代が終わり世の中が安定してくると人口も増え、この地域でも田んぼが開かれてきましたが、低地を流れる巴川は水はけが悪く、水田は10年1作と言われるほどで、大雨が降れば何日も水が引かず稲は腐ってしまいました。このような状態を何とかしようと江戸時代から大規模な巴川の浚渫や流れを変え、戦後の食糧増産を目指した土地改良事業によって良好な水田となりました。昭和40年から50年頃には高度経済成長とともに巴川流域の市街化が進み、台風などの大雨によって浸水被害が発生するようになりました。特に昭和49年7月7日から8日にかけて発生した「七夕豪雨」は巴川流域の総合治水対策事業への取り組みの契機となりました。



▲昭和33年頃の天神前から諏訪神社方面を望む  
写真提供：前島幸彦氏

## も く じ

はじめに	●遊水地の自然	7
●池沼の歴史	●春（3月～5月）	9
●巴川流域総合治水対策事業	●夏（6月～8月）	11
●多目的遊水地事業	●秋（9月～11月）	13
●遊水地のご案内	●冬（12月～2月）	15
●人との関わり	●一年を通して見ることのできる生きもの	17

《表紙の写真》第3工区から丘陵地を望む（平成13年7月22日撮影）

# 巴川流域総合治水対策事業

巴川の総合治水対策事業は、昭和49年（1974年）7月に発生した七夕豪雨の災害を契機に始められた流域全体で治水対策に取り組む事業です。この事業は、巴川<sup>ほんせん</sup>本川の改修、大谷川放水路の建設、多目的遊水地（麻機遊水地、大内遊水地）の整備、流域内の学校や公園など公共施設への雨水貯留施設<sup>うすいちよりゅう</sup>の整備が主な事業内容ですが、その他に水田への盛土規制や事業所は雨水を一時的に敷地内に貯留し、直接川に流さないような構造の建物にするなど、行政だけでなく地域と協力して水害に強いまちづくりに取り組んでいます。総合治水対策事業が進むのに従い、流域での浸水被害も減少してきました。



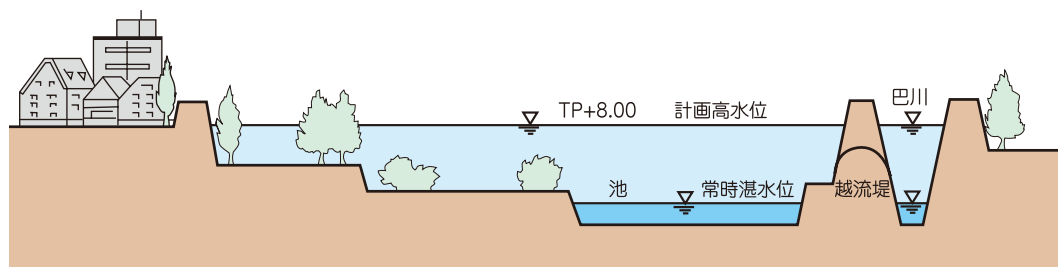
# 多目的遊水地事業

麻機<sup>あさはた</sup>多目的遊水地は、もともと低地<sup>ていち</sup>であった地理的条件を生かして、巴川が洪水の時には越流堤<sup>えつりゅうてい</sup>（堤防を低くした所）から洪水を引き込み、巴川の洪水を調節します。また、普段は公園やグラウンドとして利用していただける多目的な施設です。

麻機多目的遊水地は5つの工区に分けて整備を進めていますが、各工区の名称は、静岡北部土地改良事業（昭和38年度～48年度）の工区名を受け継いだものです。

昭和50年度に第4工区、昭和53年度に第3工区に着手し、平成16年10月までに5年に一度の大雨に対する安全性を確保しました。現在は10年に一度の大雨に対する安全性を確保するため第1工区、第2工区の遊水地整備を進めています。

多目的遊水地標準横断面図



▲平成14年7月11日  
台風6号による洪水の状況



▲七曲川からの越流（第4工区）  
越流堤

# 遊水地のご案内

## 第3工区イメージ図



◀自然再生事業での湿地の攪乱作業  
平成22年5月15日撮影



◀クリーン作戦でのホテイアオイ駆除作業  
平成19年10月20日撮影



◀イベント「第5回遊水地のいきものを探そう」(第3工区)  
平成22年7月24日撮影

## 第4工区イメージ図



▲湿地の保全作業  
平成18年5月21日撮影



▲写生を楽しむ市民  
平成17年5月25日撮影



▲部活動で利用する近隣の中学校  
平成16年5月15日撮影



▲川の日イベント  
平成19年10月20日撮影

# 人との関わり

## — 伝説「沼のぼあさん」 —

建武年間、新田義貞の弟、脇屋義助が駿河国の守護として在国中、瀬名村の長者の娘・小菊と結ばれ小葎という女子をもうけた。母小菊は産後の肥立ちが悪く三日して世を去ったので小葎は祖母に育てられた。それから18年後の観応2年（1351）7月、小葎は祖母の病気を治す祈願のため浅間もうでの途中、川合地先の巴川を舟で渡ろうとする時、麻機沼のカップに水の中に引きずりこまれて水没した。一緒にいた下男しもやうの急報によりかけつけた祖母は嘆き悲しみ、「おのれ憎いカップはこの婆が退治して沼の守り神となり、村人のご恩に報いよう」と高らかに念仏を唱えながら入水した。それ以来、浅畑沼に蓮が生えるようになった。

出典：『北街道と巴川』松永繁雄著

フォト絵本『沼のぼあさん』（お母さん人形劇団「星の子」作）にはオニバス（法器草）という霊草が生い茂り、と記されています。



▲オニバス



▲南中柴上げ保存会の柴上げ漁風景  
(平成16年2月4日撮影)



▲南沼上柴揚げ保存会の柴揚げ漁風景  
(平成22年1月17日撮影)



▲「沼のぼあさん」の霊がまつられている諏訪神社  
(朝霞の立つ境内)  
(平成8年1月17日撮影) 写真提供：森下富夫氏



◀7年に1回行われる諏訪神社の大祭

写真提供：  
森下富夫氏

## — 柴あげ（しばあげ）漁 —

魚の習性を利用した伝統漁法で、大変古くから行われていたと伝えられています。夏に栗の木の枝を切り、葉がついたまま9月に池に沈めておくと、水温の低下とともにこの枝にコイやフナなどが集まってきます。1月から2月にその周りを竹やヨシで作った「スダレ」で囲み、捕れたコイやフナはみそ汁の材料にします。冬の味覚が今も地域に引き継がれています。



▲フナ汁を楽しむ参加者たち

# 遊水地の自然

ここは水鳥や水生昆虫、湿生植物など、多くの生物が生息・生育する貴重な湿地です。

遊水地の造成にあたっては、水鳥のための開放水面、湿生植物のための水深の異なる湿原、羽化した昆虫が羽を休めるようなヤナギの林など、生物に優しい環境が造られています。

しかし、これからも多様な生物を保全するためには動物の食べ物や生息場所になる各種の植物を、草刈りや耕耘などによって管理育成する必要があります。

## 植物

静岡市は、気候は表日本型で暖帯に属していますが、冬には浅い沼地が結水する日もあるため、多年草でも地上部が枯死します。遊水地で1年を通して観察できる草本植物は、セイヨウタンポポなどごくわずかです。

これまでの調査では、種子植物とシダ植物あわせておよそ600種確認されていますが、そのほとんどは草本植物（木本はヤナギ類をはじめ20種程度）です。第2次世界大戦後、急速に増加した帰化植物が裸地に侵入し、いっそう種類と個体

数を増やしたようです（全体の約30%）。加えて、稲作をやめたあとに繁茂した背丈の高いヨシやガマが、遊水地のシンボルとされるミズアオイと、ヤナギヌカボ、ミズニラ、オオアブノメなど絶滅が危惧される22種をはじめ、美しい花をつけるサクラタデ、オモダカなどの生存を危うくしています。

生存競争は自然界の法則ですが、種の多様性はできるだけ保持したいものです。



▲ミズアオイの群落

## 鳥類

静岡市周辺では一番の野鳥の宝庫です。これまでに観察、記録された野鳥は200種類を越えています。湿地に生息する鳥が多く、年中見られる鳥から季節によって移動する渡り鳥まで、多くの野鳥たちがこの遊水地に集まってきます。

代表的な鳥のうち、年中見られる鳥は、サギ類、ケリ、カイツブリ、バン、カワセミなど。春から夏にかけては、夏鳥のオオヨシキリやヨシゴイなど。秋には渡りの途中のノビタキやシギ

の仲間たち。冬は北から渡ってきたカモの仲間たちが翼を休めていきます。

時として珍しい鳥も現れます。平成8年(1996)冬にはコウノトリが越冬し、日本中から多くのバードウォッチャーが訪れました。

(日本野鳥の会静岡〈事務局 佐藤方：電話 054-366-7021〉は、原則として毎月第4日曜日に、この池で野鳥の観察会をしています。)



▲カモの群れ



## 昆虫

昆虫では、冬を除いて多くの種類が観察できます。多いのはトンボです。イトトンボ、ヤンマ、アカトンボ類など今までに45種類記録されています。トンボ以外では、チョウ類が40種、バッタ類、テントウムシ、セミ類なども観察できます。水中には、タイコウチやヒメミズカマキリ、ガムシの仲間などの水生昆虫も生息しています。遊水地は昆虫観察に適した場所です。ヤナギ類の植樹により、昆虫の森も育てています。



▲アオモンイトトンボ

## 淡水魚

魚類は、池沼に在来種<sup>ざいらいしゅ</sup>のギンブナ、モツゴ、ヨシノボリ類が生息しますが、外来種<sup>がいらいしゅ</sup>のカムルチー、ブラックバス、ブルーギルが多く、在来種の生存が心配されています。巴川にもギンブナ、オイカワ、ドジョウ、ボラなど多くの種が生息しています。また、巴川に流れ込む小川では絶滅が心配されているホトケドジョウやメダカが少数ながら生息しており、注目されます。甲殻類<sup>こうかく</sup>では、スジエビ、テナガエビ、モクズガニなども生息しています。



▲ホトケドジョウ

## 両生類 爬虫類

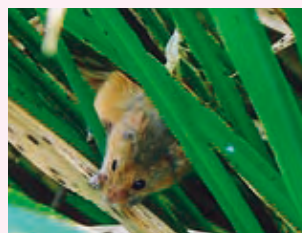
両生類・爬虫類が生息する環境は池沼と水深の浅い湿地、そして陸の部分です。池沼にはイシガメ、クサガメ、スッポン、ミシシッピーアカミミガメの4種のカメ類が生息しています。イシガメとクサガメは数の減っている貴重な種類です。水深の浅い湿地や池にはヌマガエルとウシガエルが、陸にはトカゲの仲間であるカナヘビと、アオダイショウ、シマヘビ、マムシの3種のヘビ類が確認されています。



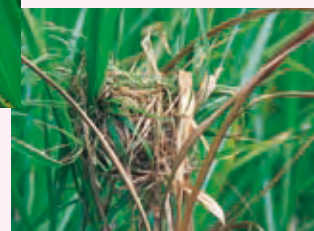
▲イシガメ

## 哺乳類

湿地の哺乳類の代表は、小さなカヤネズミです。ヨシやススキの茎の途中に丸い巣を作り、子育てします。しかし、ヨシ原が減るにしたがいカヤネズミも減っているようです。他に確認された動物は、タヌキ、キツネ、イタチ、ノウサギ、コウベモグラ、ジネズミ、アカネズミなどです。



▲カヤネズミと巣(右)



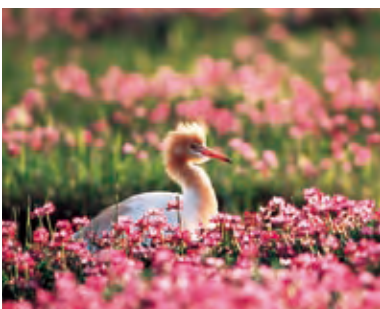
# 春

3月～5月

**春は動植物が動きだす季節。** 湿地に自生するヤナギが芽吹き、新緑や花穂が目につきます。湿地に咲くアリアケスミレや今では準絶滅危惧種になっている淡紫色の花を咲かせるミゾコウジュなどが春を代表する植物です。昆虫では3月頃よりモンシロチョウやシジミチョウ、アゲハチョウの仲間が活動しはじめ、水辺ではイトトンボ類やシオカラトンボが多く見られます。野鳥ではケリやヒバリの繁殖が始まり、渡りの途中のシギやチドリの仲間がしばし翼を休めています。カモ類ではコガモが5月頃まで見られます。



市道沿いに咲く菜の花（セイヨウカラシナなど／第3工区）



アマサギ



ヒバリ



キジ



チュウシャクシギ



セスジイトトンボ



シオカラトンボ



モンキチョウ



ベニシジミ



ヒメオドリコソウ



ネコヤナギの雄花



タチヤナギの雄花



オオイヌノフグリ



カラスノエンドウ



ホトケノザ



ミゾコウジュ



キツネアザミ



オヘビイチゴ



アリアケスミレ

# 夏

6月～8月

夏は動植物が一番活動的な季節。この頃、遊水地でいちばん目につくのはハスの花。これは昔ここにあったものが工事により蘇よみがえったものです。水中にはキクモ、ホザキノフサモが、湿地にはオオアブノメ、コツブヌマハリイ、ヌマトラノオも見られます。昆虫では、水辺にギンヤンマやチョウトンボが飛び交います。夏の代表は真っ赤なショウジョウトンボです。ヤナギの木にはコムラサキやコクワガタの姿も見え、セミ類も賑にぎやかです。野鳥では夏鳥のオオヨシキリがヨシの穂先でさえずり、コアジサシが魚を求めてダイビングします。巣立ったツバメは、夕方、群れをなしてヨシ原をねぐらとします。



マコモなど水生植物の緑が一層濃くなってきます (第4工区)



ヨシゴイ



コアジサシ



オオヨシキリ



ツバメ



チョウトンボ



ギンヤンマ



ショウジョウトンボ



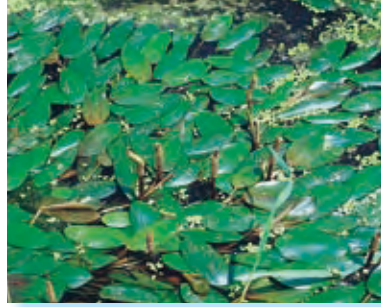
コムラサキ



コツブヌマハリイ



ミズオオバコ



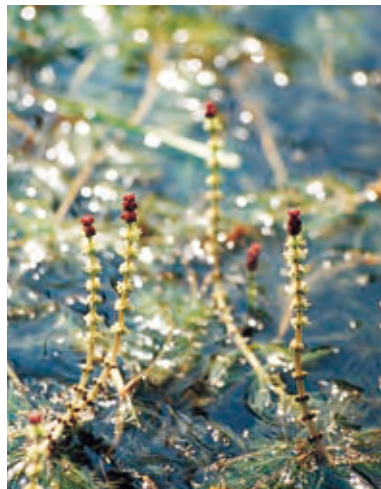
ヒルムシロ



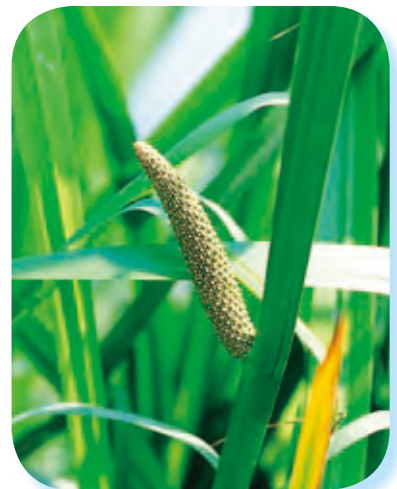
ヒロハイヌノヒゲ



メハジキ



ホザキノフサモ



ショウブ



ヌマトラノオ



オオブンノメ



オモダカ

# 秋

9月～11月

秋は遊水地の植物が一番豊かな季節。湿地には日本一とも言われるミズアオイの群落やサクラタデ、タコノアシ、ウスゲチヨウジタデなどの花が見られます。タデ類は種類も多く、秋も深まると、草紅葉くさもみじとなって美しく彩ります。銀白色の穂をなびかせるオギも遊水地の風物詩です。昆虫ではアカトンボ類のアキアカネ、ミヤマアカネなどが姿を見せ、ツマグロヒヨウモンやイチモンジセセリ、その他バッタの仲間も増えてきます。この頃野鳥では、南に帰る途中立ち寄るノビタキやコムクドリ、シギ、チドリの仲間が訪れ、冬鳥のカモやジョウビタキも10月頃には飛来します。



夕日にオギの白い穂が鮮やかです（第4工区）



ジョウビタキ



ノビタキ



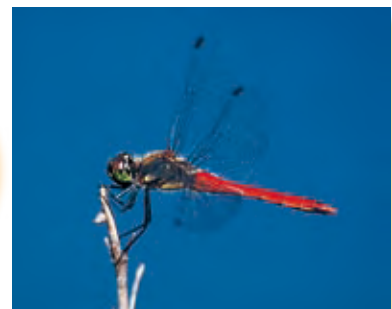
タカブシギ



ミサゴ



ミヤマアカネ



アキアカネ



ツマグロヒョウモン



イチモンジセセリ



ゴキヅル



サンカクイ



ウスゲチヨウジタデ



タコノアシ



サデクサ



ミズワラビ



ミゾソバ



ミズアオイ



コナギ



サクラタデ

# 冬

12月～2月

**冬の遊水地はカモたちの季節。** 晩秋に熟したガマの穂は、風でバラバラにほぐれ、白い毛は風によって飛んでいきます。枯れたハスは実を水面に浮かべ、タコノアシはドライフラワーとなって湿地に立っています。昆虫はほとんど姿を見せませんが、暖かい日には成虫で越冬するチョウ類のキタテハやキチョウの姿も見ることがあります。

この季節で一番賑やかなのは野鳥。1000羽を超すカモ類が冬を越し、いつも10種類近いカモが見られます。他にもオオバンやツグミ、タゲリなどの冬鳥やオオタカ、チョウゲンボウ、コミミズクなどの猛禽<sup>もうきん</sup>も現れます。



ヨシ群落は冬の風物詩です（第4工区）



冬枯れのハス



ハスの実



タコノアシ

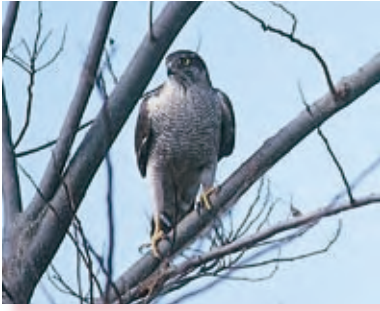


ヒメガマの穂



カワウ





オオタカ



チョウゲンボウ



コミズク



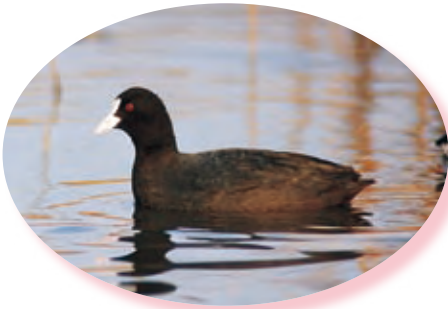
クイナ



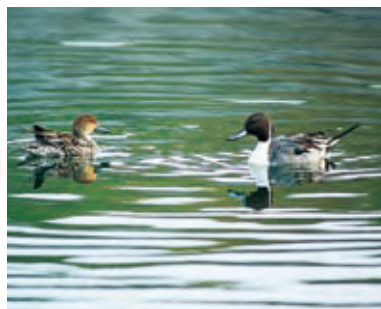
タシギ



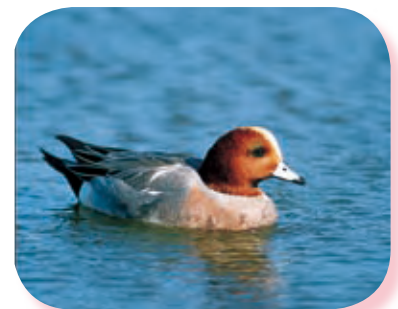
タゲリ



オオバン



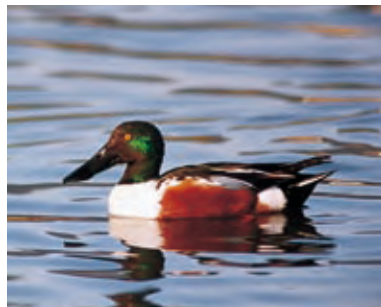
オナガガモ



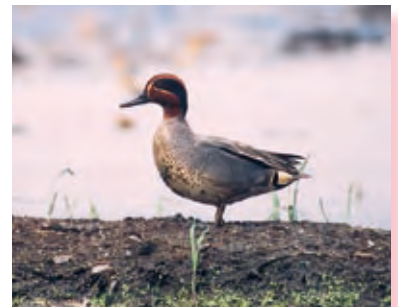
ヒドリガモ



マガモ



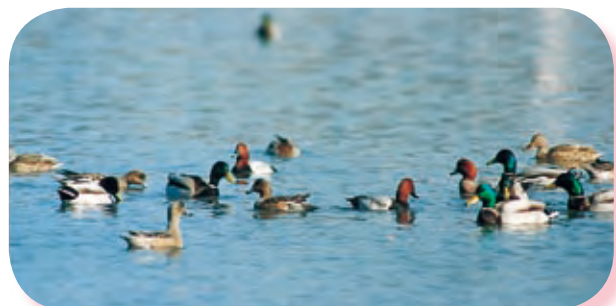
ハシビロガモ



コガモ



ツグミ



カモの群れ

# 遊水地で見られる その他の生きもの

遊水地では冬に枯れてしまう植物やいなくなる昆虫などを除くと、一年を通して見られる動植物は限られています。池沼や周辺の河川に住む魚類などの水生動物、草原や周辺の山に住むノウサギやイタチなどの哺乳類くらいで、カメやカエルなどの爬虫類や両生類は冬眠するため冬は見られません。年間を通して見られる動物は、ここでは何といても留鳥りゅうちょうと言われる野鳥たちです。一般的なスズメやヒヨドリ、キジバト、ムクドリを始めとして、湿地に生息するカワセミ、カイツブリ、バン、カルガモ、サギの仲間など、年中見られる鳥だけでも30種類にもおよびます。



アメリカザリガニ



カムルチー (ライギョ)



ナマズ



ヌマガエル



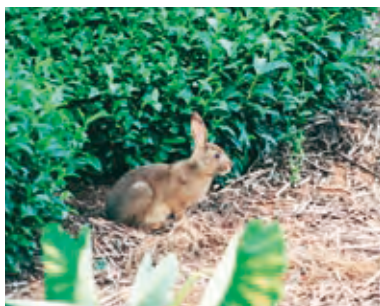
クサガメ



カナヘビ



シマヘビ



ノウサギ



イタチ





コサギ (左) とダイサギ (右)



アオサギ



サギの群れ



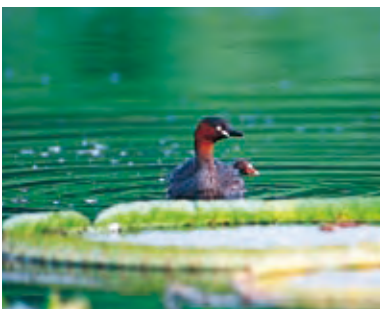
バン



タマシギ



カルガモ



カイツブリ



ケリ



カワセミ



モズ





キジバト

### ● 協力者 ●

- ・湯浅保雄
- ・高橋真弓
- ・三宅 隆
- ・伴野正志
- ・森 繁雄
- ・大坪篤次
- ・鈴木和喜
- ・平野時子
- ・小池正明
- ・尾上 元
- ・前島固女
- ・砂子知代実
- ・飯塚久志
- ・栗山由佳子
- ・前島幸彦
- ・森下富夫

特定非営利活動法人 麻機湿原を保全する会

事務局：静岡市葵区北141-1 TEL.054-247-4905

遊水地利用上のご注意：大雨により河川の水位が上昇して水が遊水地に流れ込む危険があると回転灯  が回ります。また周辺の河川から水が遊水地に流れ込む直前にはスピーカー  からサイレンが鳴ります。

回転灯が回ったり、サイレンが鳴ったら、危険ですので、すぐに遊水地の外に出てください。



## 静岡県静岡土木事務所

〒422-8031 静岡市駿河区有明町2-20

- 企画検査課  
TEL 054-286-9321  
FAX 054-286-9375
- 河川改良課  
TEL 054-286-9363  
FAX 054-286-9398

ホームページ <http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/shizuoka/index.html>

